

高知県公立大学法人

平成28年度 業務実績評価書

平成29年8月

高知県公立大学法人評価委員会

第1 評価の基本的な考え方

高知県公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条第1項及び第2項の規定に基づき、高知県公立大学法人（以下「法人」という。）の平成28年度における業務の実績について、以下の基本的な考え方により評価を行った。

評価の実施に当たっては、法人の当該事業年度における業務の実績及び自己点検・評価を内容とする業務実績報告書及び法人への聴取等に基づき調査・分析を行うとともに、その結果を踏まえて、「項目別評価」及び「全体評価」を行う。

1 項目別評価

評価委員会は、次の事項（以下、大項目という。）ごとに、中期計画の達成に向けた業務の進捗状況を勘案して、5段階により評価するとともに、その評価理由を明らかにする。なお、教育研究については、その特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、事後の外形的な進捗状況の評価を行う。

〔大項目〕

①-1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置（高知県立大学及び高知短期大学）

②-1 同上 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置（ ” ）

③-1 同上 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置（ ” ）

①-2 同上 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置（高知工科大学）

②-2 同上 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置（ ” ）

③-2 同上 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置（ ” ）

④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

⑤財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

⑥教育及び研究並びに組織及び運営の状況についての自己点検及び評価並びに当該状況に係る情報提供に関する目標を達成するための措置

⑦その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置

〔5段階〕

- 5：中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。
- 4：中期計画の達成に向け順調に進捗している。
- 3：中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している。
- 2：中期計画の達成に向け進捗がやや遅れている。
- 1：中期計画の達成に向け進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について、記述式により総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、法人に対する業務運営の改善その他の勧告事項を記載する。

高知県公立大学法人評価委員会委員

区分	氏名	役職名
委員長	宮田 速雄	株式会社高知新聞社 代表取締役社長
委員	森下 勝彦	株式会社高知銀行 取締役頭取
委員	木村 靖二	東京大学 名誉教授
委員	寺田 覚	公認会計士・税理士
委員	濱中 俊一	高知工業高等専門学校 校長

第2 評価の結果

1 全体評価

高知県公立大学法人は、高知県立大学と高知短期大学の自主性・自立性を高め、社会が求める教育・研究の高度化に対応するとともに、大学の個性化を進め、もって大学の社会への貢献を促進することと併せ、大学運営の効率化及び第三者評価に基づく運営の改善など、県民と社会に対する説明責任を果たすことを目的として、平成23年4月に設立された。

平成27年4月には、公立大学法人高知工科大学と法人統合を行い、高知県立大学、高知工科大学及び高知短期大学の3大学を一つの法人のもとで運営することで、それぞれの大学の特性を生かしながら、大学間連携をより進め、教員や学生の相互交流の拡大などにより、より幅広く、質の高い教育研究や地域との連携、産学官連携などの取組を進めている。

平成28年度は、公立大学法人となってから6年目、法人統合を行って2年目であり、第1期中期目標の最終年度でもある。この間、理事長及び学長のリーダーシップのもと、教育、研究及び社会貢献に関し積極的な取組を進めるとともに、業務運営の改善及び効率化についても、法人全体で推進している。

特筆すべき成果としては、高知県立大学においては、国公立5大学が共同設置する「博士課程共同災害看護専攻」の主管大学として、高度な災害実践能力を有しグローバルに活躍できる人材並びに災害看護研究者の養成を推進していること、学内外の多様な研究者とも協働し、積極的に研究活動を展開した結果、科学研究費助成事業の申請では公立大学で第1位（42.4%）という高い採択率を挙げていること、「域学共生」の理念の基づき、県民・地域の課題やニーズに円滑に対応できるよう連携体制の強化に努め、地域学の実習を通して、地域の課題解決に貢献できる人材が育っていること、引き続き「高知県中山間地域等訪問看護師育成事業」を推進し、関連機関との連携した活動を展開するなど訪問看護師の育成を積極的に行っていること、国際交流センターを新たに設置し、国際寮（さくら寮）の整備を行い、留学生や研修生の受入体制の充実を図っていることなどが挙げられる。

また、高知工科大学においては、全学的に、学生が自学自習に取り組み専門性を確実に身につけることができるよう授業科目を厳選した新たなカリキュラムの提供に取り組み、学士課程と修士課程一貫教育に向けたカリキュラムの再編を図ることなどによって教育の質の向上に寄与していること、学生の英語学習に対する3層の目標到達点を定め、支援体制を整えるとともに、海外研修、英語力向上集中プログラム、短期留学などによって、学生の英語能力や国際的見識を向上させる機会を積極的に提供し、グローバル人材の育成を推進していることなどが挙げられる。その他の項目についても、年度計画を十分に実施していると認められる。

2 項目別評価

①-1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知県立大学及び高知短期大学)	評価	4 : 中期計画の達成に向け 順調に推移している
---	----	-----------------------------

○実施状況の概要及び評価

学士課程においては、学部横断型のカリキュラムである地域学の改善に取り組み、効果を上げている。

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの策定に向けて、全学のプロジェクト委員会を設置し、共通教養教育と専門教育のカリキュラム・ポリシーの見直しを行っている。

看護学部、社会福祉学部、健康栄養学部では、昨年度の国家試験及び採用試験の結果分析を踏まえ、各プログラムの充実を図ることで、学生の自主的な学びを促進し、高い水準の就職率及び国家試験合格率を維持している。

大学院課程では、国公私立5大学が共同設置する「博士課程共同災害看護学専攻」において、各大学の強みを生かしたカリキュラムを提供し、学びの環境を一層整備するなど、災害看護のグローバルリーダーの養成に努めるとともに、学生を海外の国際会議や学会等に送り出すなど学術的交流を推進している。

学生の健康管理については、学生のフォローアップ体制を整備するとともに、永国寺キャンパスの健康管理センターの機能を充実し、必要な支援を行っている。

学生に対する就職支援については、1、2年生を対象としたガイダンスや、進路未決定者に対するケア等、個々の状況に応じた支援を行っているほか、永国寺キャンパスでは、高知工科大学就職支援担当者と情報交換を行いながら合同ガイダンスを実施するなど、連携を図った支援を実施している。

学生募集については、新たに入試課職員による高校訪問を実施するとともに、WEBによるタイミングを捉えた告知や受験情報誌等を活用することで、積極的に広報を展開した結果、志願者数が昨年度比で15%（214人増）増加している。

高知短期大学では、発展的解消に伴う学生数の減少に対応しつつ、学生のニーズに応えた充実した教育を提供できるように取り組んでいる。

その他の事項についても、教育の質の向上に向けて着実に取り組んでいることから、全体として計画どおりに順調に進捗していると評価できる。

②-1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知県立大学及び高知短期大学)	評価	4 : 中期計画の達成に向け 順調に推移している
---	----	-----------------------------

○実施状況の概要及び評価

看護学部・社会福祉学部・健康栄養学部・地域教育研究センターの各教員が参加のもと、健康長寿センター運営委員会を開催し、学部横断的な事業計画を4つ展開することによって、大学の特徴を活かした学術的な研究や基礎的な研究を促進している。

各教員が目標を定め積極的な研究活動を行った結果、科学研究費助成事業の申請において、採択率42.4%と、全研究機関では4位、公立大学では1位という、高い採択率を達成したほか、研究費を職位に対する逆傾斜配分することによる若手研究者の育成、学長特別事業枠を設けるなど、研究の質の向上に取り組んでいる。

その他の事項についても、他大学との共同研究、国際研究、学術研究も活性化するなど、全体として研究の質の向上に向けて着実に取り組んでいることから、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

③-1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知県立大学及び高知短期大学)	評価	4 : 中期計画の達成に向け 順調に推移している
---	----	-----------------------------

○実施状況の概要及び評価

昨年度に引き続き、県民、地域の課題やニーズに対応できるように、高知県、市町村との連携体制の強化に努めた結果、佐川町との協働した成功事例がモデルとなり、他の市町村にも良い影響を与えている。

地域学実習や立志社中などにおいて、学生が地域活動に参加し、主体的に地域住民や行政と協働していくことで、まちが活性化していくという成果が表れてきている。

健康長寿センターは、高知県の健康長寿政策の実現に向けて、関連機関と連携した活動を展開しており、中山間地域における訪問看護師の育成や地域住民の健康づくり、専門職者の能力の向上等に取り組んでいる。

高知医療センターとは、昨年度の反省を踏まえた大規模な合同災害訓練を実施し防災意識を高めるとともに、その課題をマニュアル類へ反映し、防災の向上に繋げようとしている。

新設の国際交流センターを中心に、国際寮「さくら寮」を整備し、留学生、研究生の受け入れ、交流協定校の拡充などを図り、留学生や海外からの研修生の受入体制を充実させている。

その他の事項についても、地域に開かれた大学として、教育関係機関等と連携したりカレント講座や県民開放授業、地域住民のニーズを取り入れた公開講座等を開講するなど、地域に学びの場を提供しており、社会貢献の質の向上に着実に取り組んでいることから、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

<p>①-2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知工科大学)</p>	<p>評 価</p>	<p>4 : 中期計画の達成に向け 順調に推移している</p>
--	------------	-------------------------------------

○実施状況の概要及び評価

全学的に、専門分野だけではなく様々な関連領域を広く学ぶことができるよう授業科目を厳選したカリキュラムを編成し、自学自習の時間を確保できるように平成 29 年度からコア科目を 1 限目から 3 限目に集中させるなど、教育の質の向上に取り組んでいる。

学士課程では、初年次教育としてスタディスキルの継続的实施、キャリア教育への接続、入学者の習熟度への対応、TOEIC 対策講座や英会話クラスの開講などによって、導入教育の一層の充実を図っている。

修士課程では、学士課程と修士課程一貫教育に向けたカリキュラムの再編を行い体系化・可視化を行っていること、大学起業家コースを平成 29 年度から起業家マネジメントコースに改編し、体系的なカリキュラムを提供するなど、社会人教育の一層の充実に取り組んでいる。

博士後期課程では、学位授与基準の明確化や厳格な審査を実施することによって、博士後期課程の学位の質保証に取り組んでいる。

グローバル人材の育成については、平成 27 年度に定めた英語教育の指針に基づき、単位数、配当年次を見直すなど、英語教育に関する意識の向上を図るとともに、昨年度から開催時期を見直した韓国人学生と合宿形式で実施する英語力向上集中プログラムを提供した結果、参加学生の英語力が向上するという効果が表れている。

学生に対する就職支援については、引き続き大学説明会、情報交換会、インターンシップ、県商工労働部等の連携による業界セミナー等の機会を提供するとともに、学生の志望及び企業ニーズに基づき、新たな企業開拓や、関係構築を図り、高い就職率

を継続している。

授業料免除制度や震災被災学生への全額免除により、学生に対する経済的支援制度の充実を図るとともに、学生の課外活動に対する経済的支援、施設等の整備、食育を行うなど学生への生活支援を行っている。

入学時の特待生制度や多様な入試制度の継続実施による受験機会の拡大、県内出身者への授業料免除制度や推薦入試等において県内高等学校枠を設けるなどにより、県内出身者の確保に努めている。

その他の事項についても、2キャンパス体制による学生の学びやキャンパスライフを充実させるなど、教育の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

②-2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知工科大学)	評価	4 : 中期計画の達成に向け 順調に推移している
---	----	-----------------------------

○実施状況の概要及び評価

研究力の強化を図り、国内外への研究成果などを積極的な発信を促進し、YSS (Young Scientist Seminar)、地域連携カフェの実施により、若手研究者等の異分研究者間の交流や研究領域の拡充を行っている。

海外からの博士学位論文審査委員への旅費支援制度、博士後期課程特待生としての博士号取得者と教員との継続的交流助成度を継続するなど、国際的研究交流を促進している。

総合研究所において、研究センターの新体制を構築し、研究費の重点配分、ポスドクの配置、研究室や研究機器等の整備を行うなど、研究を効果的に実施できるよう取り組んでいる。

その他の事項についても、競争資金の獲得のために研究アドバイザーによる個別相談を実施するなど、全体として研究の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

③-2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知工科大学)	評価	4 : 中期計画の達成に向け 順調に推移している
---	----	-----------------------------

○実施状況の概要及び評価

県内外で開催されるビジネスマッチングイベントに出展することで、共同研究・受託研究につながる案件を5件発掘している。

学生が中心となって開発した外国人向け観光案内スマートフォンアプリを地域へ提供していること、引き続き高知県産学官民連携センターの活動に積極的に協力することで、地域のニーズや特性に応えた活動を行っている。

大規模災害に備えて、香美球場内に香美市の防災備蓄倉庫を建設することで、香美市の災害物資配給体制を支援するなどの連携を図り、地域への貢献を推進している。

その他の事項についても、小・中・高校生を対象とした訪問教育や大学見学、小学生対象の科学教室、高校生対象の数学コンクールを実施するなど、社会貢献の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、計画どおりに順調に進捗していると評価できる。

④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	評価	4 : 中期計画の達成に向け 順調に推移している
-------------------------------	----	-----------------------------

○実施状況の概要及び評価

理事長及び学長のリーダーシップのもと、迅速に意思決定できる体制を整備し、両大学との連携を行い、効率的で適正な業務運営を推進している。

学外理事や経営審議委員からの意見や、学生の意見・提案を反映し、それぞれの大学の特徴を活かした運営を行っている。

研究者人材データベース（JREC-IN）の活用や学会等を通じての公募などによって優秀な教員を採用しているほか、事務職員の採用や内部登用も積極的に行い、大学間の人事交流にも取り組んでいる。

その他の事項についても、全体として計画どおり進捗していると評価できる。

⑤財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	評価	4 : 中期計画の達成に向け 順調に推移している
--------------------------	----	-----------------------------

○実施状況の概要及び評価

競争資金の応募件数、採択率の向上や外部資金の獲得に努め、サポート体制の一層の充実を図っている。

法人の財務システムの利活用範囲を拡大することで、予算の適正な執行管理に取り組んでいる。

その他の事項についても、インターネットバンキングを引き続き活用することで、法人全体の支払業務を一元化し迅速な処理を行うなど、全体として計画どおり進捗していると評価できる。

⑥教育・研究及び組織運営に関する自己点検・評価並びに情報提供に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向け順調に推移している
--	----	-----------------------

○実施状況の概要及び評価

各大学で自己点検の委員会を設置したうえで自己点検、評価を行い、教育内容・方法の改善に繋げ、大学の基本理念と長期的目標を実現することに取り組んでいる。

また、高知県立大学では、平成27年度認証評価における努力課題について、改善していること、高知工科大学においても、平成24年度受審の認証評価における努力課題に対して、改善報告書を提出している。

その他の事項についても、法人及び大学の教育研究活動などの情報発信を積極的に行うなど、全体として計画どおりに進捗していると評価できる。

⑦その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向け順調に推移している
----------------------------	----	-----------------------

○実施状況の概要及び評価

各大学において、キャンパスの施設及び設備の適切な維持管理を行い、永国寺キャンパスでは、利用者目線でサービス向上を図った図書館、食堂、体育館を整備し、教育研究環境の維持、向上に努めている。

各大学において、衛生管理者による職場巡視を定期的に行うなど適正な職場環境の構築に努め、キャンパス間の連携を踏まえた災害や緊急時の危機管理体制を構築している。

各種ハラスメントを防止するため、各キャンパスで相談体制を整備し、研修会を実施している。また、法人監査室長のもと、

内部監査を行い、公益通報者保護制度を整備するなど、コンプライアンスの推進体制に取り組んでいる。
その他の事項についても、全体として計画どおりに進捗していると評価できる。

- 3 組織、業務運営等に係る改善事項等
特に改善勧告を要する事項はない。